金沢大学

【No.38　金沢大学】

	金沢大学　人文科学分野
学部等の教育研究組織の名称	人間社会学域（第１年次：750 名） 人間社会環境研究科（M：55 名、D：12 名）
沿　　革	明治 27（1894）年　第四高等学校設置 昭和 24（1949）年　金沢大学法文学部設置 昭和 47（1972）年　文学研究科設置 昭和 55（1980）年　法文学部を改組し、文学部、法学部、経済学部を設置 平成５（1993）年　社会環境科学研究科設置 平成 18（2006）年　文学研究科、法学研究科、経済学研究科及び社会環境科学研究科を改組し、人間社会環境研究科を設置 平成 20（2008）年　文学部、教育学部、法学部、経済学部を改組し、人間社会学域を設置
設置目的等	昭和 24（1949）年に、総合大学の文系の中核学部において人文・法学系学生を育成することを目的として、法文学部が設置された。 昭和 47（1972）年に、学部における一般的教養及び専門的教養の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力を有する人材を養成することを目的として、文学研究科が設置された。 昭和 55（1980）年に、法文学部の３学科をそれぞれ独立した学部として整備するため、法文学部を改組し、文学部が設置された。 平成５（1993）年に、社会環境科学に関する総合的・学際的かつ体系的な教育・研究を行い、高度の学識、幅広い視野及び豊かな応用能力を備えた人材を養成することを目的として、社会環境科学研究科が設置された。 平成 18（2006）年に、文学・法学・経済学の各分野を発展的に融合させ、人文科学及び社会科学の手法をもとに、個人と集団をめぐる諸問題を多角的にとらえることができる人材養成を行うため、文学研究科、社会環境科学研究科等を改組し、人間社会環境研究科を設置した。 平成 20（2008）年に、人間及び人間社会が直面する諸問題の解決に貢献寄与するため、自発的な課題探求能力を持ち、多文化共生時代にふさわしい理解力と判断力を持った個性的な人材を養成することを目的として、文学部等を改組し、人間社会学域を設置した。
強みや特色、社会的な役割	【総論】 金沢大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るととも

に、地域や国際社会における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。

引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

(学部)

○　人文科学の学問分野の教育研究を通じて、自発的な課題探求能力や解決能力及び多文化共生時代にふさわしい理解力と判断力を備え、広範な人間の行動・思考・創造及びその蓄積としての思想・歴史・文化・言語等を深く理解し、総合的・学際的な視野を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。

○　このため、学生が自らの興味・関心の焦点を段階的に絞り込み、学習を深化できるよう設計された経過選択型の教育課程や、異文化体験実習、海外でのフィールドワーク等の特色ある実践的教育を行っている。

○　今後、人文科学の先端的な分野である文化資源学や認知科学を学類教育において推進するため、文化資源学については、大学院リーディングプログラムにおける教育実績を踏まえ、また、認知科学については、組織的に展開する特定研究推進プログラムの研究実績を踏まえ、教育体制の充実を図る。併せて、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけでなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

○　人間行動、社会現象、言語、歴史等に関する探求を通して、“人間”に関わる様々な問題に創造的かつ柔軟に取り組む能力を持った人材を育成するとともに、「人間社会環境」について、人文科学の手法に依拠しつつ、高度な専門性に基づき総合的・多角的に探求する能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。

○　このため、博士前期課程では、学際総合型と専門深化型プログラム選択制の導入、北京師範大学（中国）及び中国人民大学（中国）との文学及び言語学に係る高度な専門的能力の醸成を目的としたダブルディグリープログラムなどを実施している。また、５年一貫の博士課程教育リーディングプログラムとして、「文化資源マネージャー養成プログラム」を実施している。

○　これらの取組を通して、博士後期課程において、平成 24 年度では学位授与者８名中７名が、平成 25 年度では学位授与者６名中４名が教育

	研究機関に就職している。 ○　今後、社会人・留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、人文科学の諸専門分野の高度な専門性に根ざしつつ、総合的多角的な探究能力を有する人材を養成するため、教育組織の再編に取り組むなど、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。 【研究】 ○　人文科学分野の研究実績をいかし、文化資源学分野では、イタリアの国立フィレンツェ修復研究所とのサンタ・クローチェ教会壁画修復研究、グアテマラの文化スポーツ省との中米マヤ遺跡研究などを行っている。また、認知科学分野では、言語コミュニケーションとその障害に関する研究を行っている。 ○　これらの取組を通じて、研究成果が著名な学術雑誌に掲載され、インドの密教文化やチベットの仏教美術などについての著書が出版されている。また、日本におけるイタリア美術史の普及・促進のための活動及びサンタ・クローチェ教会の壁画修復を統括したことにより、イタリア共和国等から勲章を受章している。 ○　今後、文化資源学を研究する国内外の研究機関との連携を図り、文化資源の総合的・多角的な研究と保護・活用法の開発に係る研究拠点の形成を目指すなど研究を組織的に推進するとともに、地域や国際社会における課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。 【その他】 ○　研究成果を公開講座により広く市民に還元している。さらにその内容を出版したものを高等学校へ配布し、大学進学への動機付けを図っている。 ○　全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学類・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。